

またまた壕発見
棚原の区画整理地内

去年末に、棚原

の区画整理地内の工事現場で、沖繩戦当時の壕が発見されました。

新聞にも掲載されていたので、町民のみならず御存知かと思われま

す。町史係では、これまで戦跡考古学という立場から戦跡壕調査を行ってきました。今回発見された壕についても、これまで同様の調査を行いました。そのもようを少し説明いたします。

まず、壕内のようなを観察しながら写真に記録してい

ます。壕の長さは約三〇メー

トルで、入口付近から二〇メートル奥あたりまで落盤防止のための柱跡が確認されました。

あたりには木片も散在しています。さらに、横穴が設けられ、奥の残り一〇メートル部

分は狭く、奥にいくにしたがって上がっていくようにつくり

になっています。また、灯りを置いたと見られる小さな穴は、黒い煤がこびりついてい

ます。いちばん奥の壁には、つるはしの跡が鮮明に残されています。

次の作業は、実際に壕内を測っていきます。二メートル間隔に基準点をもうけ、高さや幅を測量します。

さらに壕内の埋もれた部分の土を取り除き、遺物を確認していきます。この作業は入口から五メートルまでは重機

でさらいましたが、その後はスコップを持つての作業となりました。途中、スコップが金属片にあたり、拾い上げると手榴弾だった、など

ということもありました。

遺物としては、手榴弾や小銃弾、薬液の入ったアンブルや水銀体温計、缶詰、ビール瓶（ダイニツボンビールの刻

名あり）、しよく台などがありました。

測量と遺物確認の作業は、きつい仕事です。なんといつ

ても狭く暗い壕の中では空気も薄いうえ、湿気が多く、息苦しくなってくるのです。で

も沖繩戦当時、この壕の中で過ごした人々のことを考えると、そんな甘いこともいって

られませんね。

これらの作業とともに、壕についての情報を集めます。測量と遺物収集で得た情報の

ほか、聞き取り調査を行ったり、既刊町史などにも目を通します。

聞き取りによるとこの壕は、前線から送られてくる負傷兵を応急処置した医務室として使われていたのではないかと

者は再び前線へ、傷の深い者

は病院壕（現キリスト教短期大学のある丘）へ送られたという

ことでした。そのことは町史にも記載されています。

しかし、医務室はもつと大きかったという話や、医務室近くに負傷兵を担送する防衛隊

の人々が衛生兵とともに避難していた壕があったという話もあり

ます。遺物をみても、

医務室なのか、衛生兵のいた壕なのか特定できません。

また、上原―棚原の稜線は旧日本軍の防衛線となっていたため、いたるところ陣地壕

だらけだったし、さらに現在は区画整理のため、もとの地

形がわからなくなっていることも、壕の断定を困難にしています。

今回の調査で強く感じたことがあります。それは、聞き取り調査では

証言を得ることができずに、現地での確認作業がとても困難であるということでした。戦後五〇年余り経過したという事実、歳月の壁を、まさに実感したのです。しかし、私たちは今、つまり壕が存在するうちにその作業をやらなくては

なれば、沖繩戦の証言もその風化の速度を速めることでしう。

改めて『西原町史』第3巻・資料編2「西原の戦時記録」を読みかえし、激戦地・西原を物語る壕の存在の重要性を感じたのでした。

追記：今回も、区画整理課職員、丸政土建や南城技術開発、伊波精吉さん、新垣光子さん、喜屋武久真さんら多くのみな

さんにご協力をいただきました。ありがとうございました。

ありがとうございました。

寄付・香典返し

（ありがとうございます）

▽町商工会（呉屋定子会長）が、チャリティーグラウンドゴルフ大会の収益金として、町社会福祉協議会へ二十

十万円。▽北中城村仲順二百六番地、「丘の一本松会」（代表者・太田よし子）が、町社会福祉協議会内はばた

き共同作業所へ十万円。▽字我謝二百四十一番地の二二二、上地信子さんが、故

夫長徳さんの香典返しとして町社会福祉協議会へ五万円。▽字小波津四百六番地、小波津ミエ子さんが、故夫弘行さんの香典返しとして町社会福祉協議会へ十万円。



△右側に横穴（奥行き0.8mで行き止まり）があり、奥へいくにしたがい上っている